

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">化学療法学</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">薬学部薬学科3回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">小山 豊 綿野智一</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">悪性新生物による疾患および感染症を治療する薬物</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>病原微生物の感染や癌の発生は人の生命を脅かすもので、これらにより生じる疾患に対して多くの薬物が用いられています。化学療法学では、「体内で異常に増殖あるいは複製することにより人体に疾患を生じる細菌、ウイルスなど、および悪性新生物に対する薬物の作用機序を理解し、薬物治療へ応用できるようになるために、抗菌薬、抗悪性腫瘍薬などに関する基本的知識を修得する」ことを一般目標とし、授業を進めます。</p> <p style="text-align: center;">(日本薬学会モデルコアカリキュラム C14(5)「病原微生物・悪性新生物と戦う」、およびA(2)「医療の担い手としてのこころ構え」の一部に対応)</p>		
<p>評価方法</p> <p>授業への出席数、および期末時に課す試験の成績を評価の対象とします。また随時小テストを行い、各受講生の目標への到達度をフィードバックして行く予定です。</p>		
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">薬理学 - 医薬品の作用 -</p>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">竹内 幸一 福井 裕行 栗原 順一 編</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">廣川書店</p>
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファーマシューティカルノート 第2版</li> <li>・New 薬理学</li> </ul>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">百瀬弥寿徳 編 田中千賀子、加藤隆一</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">医学評論社 南江堂</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>以下に示す化学療法の基本項目に関する知識の修得を、各回の授業での到達目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の使用に関する事故回避における、薬剤師の重要性を認識する。 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。</li> <li>2. 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。 代表的な抗菌薬の使用上の注意を説明できる。</li> <li>3. 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。 テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。 マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。</li> <li>4. アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。 ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。 サルファ薬 (ST 合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。</li> <li>5. 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。</li> <li>6. 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。</li> <li>7. 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。</li> <li>8. 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。</li> <li>9. 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。</li> </ol>		

10. 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。  
悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。  
化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。
11. 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。  
代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。  
代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。  
代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。
12. 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。  
抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。
13. 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。
14. 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。  
主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。
15. 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。  
副作用軽減のための対処法を説明できる。